



調査報告書

令和6年11月13日

小牧市議会議長 様

会派名 牧政会
代表者氏名 鈴木 裕士

調査を行いましたので、その結果を報告します。

記

1 調査日

令和6年11月12日（火）

2 調査先及び調査項目

（１） 調 査 先： 静岡県湖西市
（静岡県湖西市吉美 3268）
調査項目： 企業シャトル Baas（バース）事業について

3 参加議員

小島倫明、石田知早人、鈴木裕士、舟橋秀和、木村哲也、佐藤悟
余語智、阿部哲己

4 調査内容

別紙のとおり

① 日時

令和6年11月12日（火） 12時57分から15時18分まで

② 訪問先 湖西市 都市整備部 都市計画課

- ③ 説明者 都市整備部都理事兼土地利活用統括監 都市計画課長
 勾坂隆弘
 課長代理兼都市計画係長 杉山充宏
 都市計画係 主査 山下祐介
 都市計画係 主任 榑原徹

④ 調査項目 企業シャトル Baas(バース)事業について

⑤ 視察先の選定理由や目的

小牧市内の公共交通の空白地域の解消及び公共施設の利用促進を主な目的として運行している巡回バス「こまくる」は、令和2年12月1日に市内全域で再編を行い、令和4年3月1日に一部のルート・ダイヤ等を見直し、令和5年6月1日にさらに一部ルート・ダイヤの見直しを行った。

現在、令和8年4月に予定している「こまくる」の再編運行に向け、「令和8年度こまき巡回バス再編に係る基本方針・ルート（案）」を作成され、11月5日から12月4日の間で、市民の皆様から意見の募集を実施している状況である。

一方、市民の足となる先進的な取組として、静岡県湖西市では市内企業の協力の下、実証実験として「企業シャトル Baas(バース)事業」を展開されている。

この内容を把握、調査するため湖西市を視察先として選定した。

⑥ 視察項目の概要説明

（導入経緯・内容・実施状況・効果・課題等）

○経緯及び内容

【企業シャトル Baas(バース)事業】

・湖西市においても、人口減少、運転手不足が懸念されている中、市内の大企業では、渋滞緩和を解消するため、通勤用バスを運行している。この企業バスを市民の移動手段に用いる新たな公共交通として利活用できないか、令和元年度市内企業10社による「企業シャトル Baas 研究会」を立ち上げ、検討を進めてきた。

・市の公共交通会議の承認をいただき、令和2年度から「企業シャトル Baas 実証実験」に着手することができた。この実証実験は、市内企業が運行するシャトルバスを地域資源として活用し、地域住民が車に頼らなくても豊

かな生活をできるように、市内企業の協力のもと企業シャトルバス(白ナンバー)に地域住民が乗車できるサービス実証実験である。料金は、1乗車100円とし、11枚綴り1,000円でも販売し、さらに特定のお店で使用できるクーポン付きとしている。

- ・事業費については、令和2年度は国の補助事業を活用し1,500万円、令和3年度から令和5年度は県事業を活用し、各年度800万円から1,300万円である。

- ・運行については、道路運送法78条第2号に規定に基づき実施し、第1種運転免許で運行が可能となる。企業バスの整備点検は企業側負担、運行経費の保険は市側の対応としている。運行管理者は市が主体となっている。

- ・令和5年度までは、運転手が停留所における人数を事前に把握したかったため、乗車するには「事前登録」と「事前の乗車予約」が必要であったが、市民からの声もあり、令和6年度の実証実験においては、登録及び予約なしで行っている。

- ・バスの停留所は、コミュニティバス(コーちゃんバス)と企業シャトルBaasと別々に設置している。なお、Baasには、降車ボタンがないため、口頭で運転手に伝える必要がある。

- ・令和6年度のBaasの運行は、10月1日から令和7年2月28日まで実施する。10月分の乗車実績は、61名であった。利用した市民からは、「ありがとう」「パルマルシェまで行けて良かった」「ずっと家に閉じこもっていたが外に出るようになった」「ボケ防止に良い」などの声をいただいた。

※事業名:企業シャトルBaasは、「企業シャトルバス」と「MaaS(Mobility as a Service)」を掛け合わせた造語」

○課題

- ・本格運行をするには、自動車から公共交通への意識改革が必要である。
- ・令和6年度から、事前予約なしにしたが、歩行が困難な方々にとっては「事前予約」がいいのではないかと検討を要す。
- ・企業バスはマイクロバスなので、高齢者が乗るのが困難である。
- ・企業の従業員も一般市民と一緒に乗車することで、反感を持っている方もみえる。
- ・企業側からは、やはり一定数の乗車がないと難しくなってくると言われている。

⑦ 議員からの主な質疑

質 1 予約システムを作られたと思うが、現在はどのような状況か。

答 1 令和 6 年度からは予約はやめたが、システムとしては残っている。来年度に向けてシステムの方向性を考えていきたい。

質 2 満員で乗車できないときの対応は。

答 2 案内の中で、満員で乗車できない旨の注意喚起はしてある。

質 3 この実証実験の運行に関し、関係してくる企業は。

答 3 運行会社 1 社、保険会社 1 社、予約システム会社 1 社である。

質 4 国の補助事業（経済産業省地域新 MaaS 創出推進事業）を活用された経緯は。

答 4 経済産業省から湖西市に派遣された職員によるアドバイスと聞いている。

質 5 新たにバス停を設置する要望はあるのか。

答 5 特にない。

質 6 市民の方々は、浜松市とか他市へ買い物に行く人は多いのか。

答 6 市内の地域で買い物される方が多いです。

質 7 令和 6 年度からの事業費は単独市費で行われているが、令和 6 年度予算はどれだけか。また令和 7 年度予算は。

答 7 940 万円である。令和 7 年度予算は、事業費として一番かかるのが保険料である。それを少しスリム化することを考えている。

質 8 今後、実証実験はいつまでやるのか。

答 8 令和 7 年度も実施する予定ではいるが、企業側からは一定数の乗車がないと継続は難しいのではないかとされている。近隣の豊橋市とも連携しながら、今後も検討していきたい。

⑧ 議員の意見

- ・企業バスを利活用することで、市民は企業とも近い関係になり、定住者の増加に繋がるのではないかな。
- ・令和2年度から、一定の予算をかけて実証実験を行っているが、本格運行までにはいくつかのハードルがある。
- ・令和6年度から「事前登録」「事前予約」がなくなり、今後利用者が気軽に利用できるのではないかな。
- ・企業バスは、マイクロバスが多いため、乗りにくく高齢者等には不向きと思われる。
- ・実証実験においても、費用対効果を考える必要がある。
- ・企業シャトル Baas 事業の行政評価を精査する必要がある。

⑨ 考察（小牧市への反映）

湖西市には大企業があり、製造業においては1.7兆円の出荷額を有し、一人当たりの出荷額は全国1位となっている。

このことから、従業員の勤務においては自家用車の利用により、渋滞も多くなっている。また、各企業により企業用バスも活用され、様々な対策が行われている。

そこで、湖西市は、企業バスの利活用に視点を向け、市民の足の確保に向け10社の研究会を設置した。実証実験は、今年度で5年目となり、市民の声、企業声を随所に聞きながら、改善を行っている。

ただ、本格運行を実施するには、実証実験において、ある程度固定した乗車がないと、次のステップに進むのは難しい事業ではないかを感じる。

本市でも、大企業が多くあり、企業バスを活用している会社もある。湖西市のように進めていくのであれば、企業、市民、行政が同じ方向性を向かないと進むものではない。

また、自動車主体の移動手段から、公共交通へ切り替える意識を持つことが肝要である。

今後も、本市の渋滞緩和策及び市民の利便性を勘案しながら、様々な公共交通体系の手法を研究していきたい。